

Strawberry Moon

吉田 真人

英語圏では、各月の満月に季節に相応しい愛称を付けて愛でている。6月の満月は Strawberry Moon である。

アメリカ合衆国五大湖の西側に暮らす先住民が、木の実や種子を採集する暮らしの中で、その時に採集できるものをその月の呼び名とした、これが名称の起源と言われている。即ち、イチゴの収穫時期に昇る満月が Strawberry Moon である。

40年ほど前の英国滞在時に何回か「イチゴ狩り」をした。5月末から6月にかけてロンドンから南東にドライブウェイ、Horse Chestnut (マロニエ)の並木に白あるいは赤い花が咲き誇っている。その下に Pick Your Own と書かれた看板がいくつも目に付く。釣られて農場に入る。入場は無料、貸し出されたバケツに自分で摘んだものを入れ、重量を計り代金を払うシステムで、いくらになるのか心配であったが、極めてリーズナブルな価格であった。なお、収穫中の味見分はお目こぼしだ。ジャムを作るのだろうか、必ずしも完熟ではないイチゴを大量に買い求める客もいた。

6月即ちあの June Bride の好天下で買い求めたイチゴの美味しさが未だに頭の中に宿っている。

日本でのイチゴの旬はいつなのか？かつては春先の「石垣イチゴ」が走り、その後初夏になって露地物が出回る、と言う季節感であった。ハウス栽培が普及するにつれ、収穫時期がどんどん早くなった。今の子供達に、イチゴの季節は何時と聞いたら、たぶん冬とかクリスマスと答えるのだろう。

ハウス栽培のイチゴは、いわば農業用A重油の塊で、地球温暖化の主因はCO2にあると考える人は敬遠すべきものである。マスコミが脱炭素を騒ぎ立てる中で、冬でも大量のイチゴがマーケットに並んでいる様は異常である。

なお、7月の満月は Buck Moon (牡鹿の角が生え替わる時期)、8月の満月は Sturgeon Moon (五大湖周辺で盛んに行われていたチョウザメ漁が、最盛期を迎える頃)である。

(2024年6月13日)